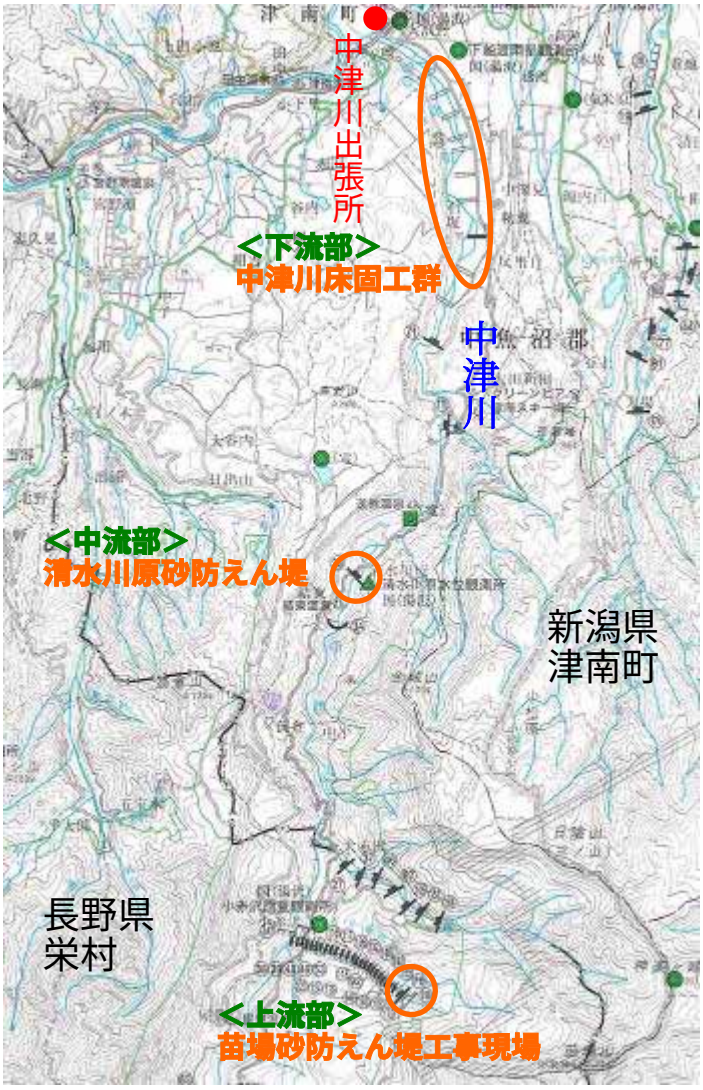
湯沢砂防女性モニターレポート　第２回見学会

平成１８年９月発行
国土交通省湯沢砂防事務所

湯沢砂防事務所は女性モニターの皆さんと一緒に、より良い砂防について考えています。

8 月 29 日火曜日、12 名のモニターの方々に参加いただき、第 2 回見学会を行いました。今回は、中津川流域をマイクロバスで上流から下流へ下りながら、上流･中流･下流それぞれの川の特徴と砂防対策を見ていただき、その上で、砂防事業に対する感想や情報発信について意見交換しました。

＜位置図＞



＊＊プログラム＊＊＊＊＊＊＊＊

9:00	湯沢砂防事務所出発
9:50	中津川出張所出発
10:40	苗場砂防えん堤工事現場見学
12:00	昼食
12:50	清水川原砂防えん堤見学
13:20	中津川床固工群見学
13:40	津南町役場着、休憩
13:50	意見交換会
14:50	終了・解散～湯沢砂防事務所着

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

バスの中で、説明を聞く
女性モニターのみなさん

中津川について

中津川は流域面積 346㎢、流路延長 46㎞、中･上流部は長野県、下流部は新潟県に位置し、群馬県の野反湖（のぞりこ）から流れ出しています。かつて「人とり川」とよばれたほど、中津川は流れの急なあばれ川で、侵食のはげしい上流部では谷が深くなっています。

この川の両側に位置する逆巻、清水川原、結束、見倉、前倉、大赤沢の集落が秋山郷です。津南からの道路ができるまで「陸の孤島」とも言われ、むかしの習慣や道具がそのまま残されていました。現在では道路の整備も進み、雄大な景観と温泉を求めて多くの観光客が訪れます。（山と川のくらし「つなんまち」より）

現地見学

１．「上流部」の砂防施設　　苗場砂防えん堤（工事現場）

中津川上流部は火山地域のために山が崩れやすく、中･下流に多量の土砂を供給する地域となっています。そのため、砂防えん堤を設置して土砂を貯めて、貯まった土砂で崩れやすい山すそを押さえて崩壊を防ぐとともに、渓流の勾配を緩くして、土砂の流れる勢いを弱めて、中･下流へ流れるのを防ぎます。

空から見た小赤沢川

小赤沢川は、大正 3 年の大雨で土石流が発生して、12 名が亡くなるという災害がありました。下流から上流へ砂防えん堤を順次施工し、下流から上流へ土砂を押さえるように整備を進め、現在苗場砂防えん堤を施工しています。これらの砂防えん堤は、小赤沢地区の集落をはじめとして、役場支所や診療所などの地区の拠点となる施設や生活道路･観光道路として重要な国道 405 号を守っています。

中津川出張所の五十嵐出張所長が
小赤沢の砂防工事について説明しました。

現場代理人が工事の施工方法などを説明。

質問する女性モニター

＊モニターさんから現場でいただいた質問・応答＊

Q：赤色灯が崖の上に設置されているけれど、あれは何？

A：土石流が発生した場合、上流に設置したワイヤーが切れて回転灯が回り、サイレンがなる仕組みの土石流センサーです。作動したら、作業員はすぐに避難します。月に 1 回は避難訓練をしていて、こういう危険な渓流で工事するためには、このような装置を付けるよう決まっています。

Q：砂防えん堤の奥行きは何ｍくらいあるのですか？

A：完成時には底面が 20m、上面では 4mの台形状の形となります。このえん堤は重力式といって、土石流が来てもコンクリートの自重でもちこたえる構造です。

＊アンケートでいただいた感想＊

- 現場へ行く途中から足場がとても危ないと思っていましたが､もっと山奥で工事をしているなんて驚きました。
- 2000mの高い山から土砂が流れてくるのを防ぐのがいかに大変か分かりました。だいぶ上流に入ってやる作業なので、いろんな面での苦労がちょっと分かりました。

２．「中流部」の砂防施設見学　　清水川原砂防えん堤

中流部では、上流から流れてきた土砂が一気に下流へと流れて行かないようにするため、砂防えん堤を配置しています。勾配が緩くなって川幅も広がる中流部では、比較的大規模な砂防えん堤によって流れ出す土砂を調節しています。

砂防えん堤が上流側に土砂をため、平坦な河原ができています。土石流や洪水で多量の土砂が流れてきても、ここに土砂を一時的に堆積させ、下流へ一気に流れ出すのを防ぐ働きをします。この清水川原砂防えん堤は、湯沢砂防事務所が中津川の砂防事業を開始してから最初に着手した砂防えん堤で、昭和 31 年に工事を終えました。中津川中流部で代表的な砂防施設の一つです。

清水川原砂防えん堤

＊モニターさんから現場とアンケートでいただいたご意見＊

- 50 年余の時を過ぎたことを感じさせず、自然にマッチして、水量のせいかダイナミックに感じました。
- 橋の上から砂防堰堤を見たとき、とても美しいと感じました。

３．「下流部」の砂防施設見学　　中津川床固工群

下流部では、出水時に濁流が川岸をはげしく侵食して田畑や道路などに大きな被害をもたらすことがあります。そこで、川岸や川底の侵食を防いで川筋を固定するため、床固め工群の整備を進めています。

中津川下流域は、上流からの土砂流出と蛇行による渓岸侵食が繰り返され、日本有数の段丘地帯となっています。昭和 56, 57, 58 年には相次いで堤防・護岸等の決壊、道路や公園、田畑が被災しました。このため、平成 10 年度、流れを安定させるための床固工群の整備に着手しました。ここでは、津南町の背後地整備計画である「中津川水辺プラザ」整備構想と連携し、自然豊かな中津川の河川空間を活かし、町民の様々な「交流の場づくり」「川とのふれあいの場づくり」を目指しています。

中津川第 3 号・4 号床固工付近の状況

＊アンケートでいただいた質問とお答え＊

Q：見学した日があまりに穏やかだったので、なぜ大規模な床固工を作らなければならないのか、実感がわきません。大雨のときは川の顔が変わるのでしょうか？

A：大正３年の出水では崖下にあった阿蔵平という集落が田圃ごと流されて移転しています。右の写真は平成 13 年、第３号床固工建設中に発生した出水状況ですが、川幅いっぱいを濁流が流れているのがわかります。

平成 13 年 8 月　第 3 号床固工付近の出水状況

＊アンケートでいただいた感想＊

- こんな広い川になぜ工事が必要なのか、少し疑問でしたが、話をきいて必要性を感じました。
- 河川公園として周辺が整備され、地域の方々が利用出来て良いと思いますが、床固工群があるから安心という認識は、私を含め、地元の人にもないのではないかと思いました。

意見交換会　（津南町役場会議室）

上流から下流にかけてそれぞれの場所に応じ役割を持つ砂防対策についての感想や、一般の方々にわかりやすい情報発信の方法について、女性モニターのみなさんに伺いました。

意見交換会の状況

＊会議とアンケートでいただいたご意見＊

（見学全体の感想）

- えん堤の１つ１つに大きな働きや活躍があるのだとよくわかりました。
- 自然災害の恐ろしさ、大きさを少しでも防ぐ為に、砂防事業は本当に大切で必要だという事を感じました。
- 今まで長年、こつこつと行ってきた山奥でのえん堤工事、床固工事によって災害を防げている事実を私たちは知らなければならないと思う。
- 山深い沢の中で災害を防ぐ砂防工事に対して、少なからず感動を覚えました。こんな大事な工事が人知れず行われているのは、少し疑問に思います。地域を守る対策を出前講座などでもっとアピールして下さい。

（効果的な情報発信についての意見・要望）

- 近年、続いている豪雨に因る土砂災害で、砂防施設への関心は高まっているのは確実です。それが「喉元過ぎたら」にならないように、良いタイミングでＰＲすることが大切。
- 川原の運動公園などを作るときに、上流でこういう砂防えん堤を作って床固工の工事をして、川の流れを整えているから、こういうような利用できる空間ができるという説明看板を作ってもいいのではないか。
- 砂防事業の必要性について、砂防事務所の方から講演会を開いてもらいたいと思います。
- 土石流の危険地域を、住んでいる人は知っているでしょうが、遊びにきた人にもわかる様にしてほしい。
- バスペインティングのときに、「えん堤は何をするものかわからない」とあるお母さんと話をしました。そのときに、模型を使って実験してもらい、すごく良くわかったと話をしてくれました。模型や映像は、どうなるという過程がわかるので、わかりやすいです。
- パネル展をするなら、病院や図書館などの公共の施設のほうが見てもらいやすいと思う。

（課題など）

- 災害の後、どう整備されたという報道はありません。地域を守るために必要な工事がどう行われているかは、わからないままです。そのことをとても残念に思っています。
- 後世の人がわかるように、災害の歴史をまとめた資料を残して伝えていくべきと思う。

湯沢砂防より

今回は、砂防工事などの情報発信がまだまだ不足していること、砂防事業は地域密着が基本であるから地域の方々と連携して、地域の方々が集まる場所での情報発信が重要など、たくさんの貴重な意見を頂きました。

引き続き、今後の砂防事業や防災啓発活動のあり方について女性モニターの皆様とともに考えて行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：国土交通省 湯沢砂防事務所 調査課　　TEL：025-784-2073　　FAX：025-784-2073

〒949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立 23　　ホームページ：http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/